

# 勝央町内遺跡

試掘確認調査報告書

(平成15年度～平成17年度)

2009年3月

岡山県  
勝央町教育委員会

# 勝央町内遺跡

試掘確認調査報告書

(平成15年～平成17年)

2009年3月

---

岡 山 県  
勝央町教育委員会

## 序 文

勝央町は豊かな自然環境にあって古来より人々の生活が営まれ、およそ1万2千年前の縄文時代草創期に始まり、江戸時代の宿場町として栄えるなど、800箇所を超す遺跡が確認されており、現在まで豊かな歴史・文化を育んできました。

本書は平成15年度から平成17年度に実施した町内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。調査は遺跡の有無や広がり、遺跡の性格を把握することを目的としたもので、限られた範囲の調査ではありますが、私達の先人が残した遺構や遺物などは、これらを地道に積み重ねることによって、町の歴史を構築する上での貴重な財産になると考えています。

本書が勝央町の歴史を理解するための一助となり、また広く一般の方々の文化財に対する理解と関心を高める上で役立てば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成にご協力いただいた方々をはじめ、ご支援・ご協力を賜りました関係者各位に心より御礼申し上げます。

平成21年3月

勝央町教育委員会

教育長 岸 本 耕 二

## 例 言

1. 本書は勝央町が平成20年度国庫補助事業として実施した勝央町内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書には平成15年度から平成17年度の3ヶ年、国の補助金を得て実施した試掘・確認調査の成果を掲載している。
3. 調査および報告書作成は勝央町教育委員会教育振興部が行い、調査および本書の執筆編集は勝央町教育委員会教育振興部 團 正雄が担当した。
4. 調査・報告書作成の体制

### 発掘調査体制

年度	名称	教育長	課長	課長補佐	担当	
15～17.4	社会教育課	岸本耕二	福本浩二	石川寛次	團 正雄	H17.4教育振興部に変更
年度	名称	教育長	総括参事	参事	担当	
17.5～19	教育振興部	岸本耕二	光石和廣	小村勝彦	團 正雄	総括参事、参事補に変更

### 報告書作成体制

年度	名称	教育長	総括参事	参事補	担当	
20	教育振興部	岸本耕二	小村勝彦	厨子一久	團 正雄	

5. 本報告にかかる遺物・写真・図面は勝央町教育委員会で保管している。
6. 発掘調査および本報告書作成に際して、地元の方をはじめ多くの方にご協力を頂きました。

## 凡 例

1. 本書に示す標高値は東京湾標準潮位(T.P.)を基とし、基本的に方位についてはトレンチ位置図が真北、トレンチ平面図・断面図は磁北を指す。
2. 本書に使用した調査位置図は、勝央町教育委員会が平成15年3月に発行した「勝央町遺跡地図」を複製したもので、トレンチ位置図は、1万分の1勝央町都市計画地図を複製したものである。
3. 本書における遺構および遺物実測図の縮尺については明記しているが、主なものは以下のとおりである。  
トレンチ平面・断面図(1/80～1/100) 遺物：土器・石器(1/4)
4. 本書に掲載した土器の断面を黒塗りしたものは、須恵器もしくは須恵質、白抜きしたものは、弥生土器、土師器、網入りは瓦質土器を示している。

# 本文目次

序文

例言・凡例

目次

第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	3
第1節 勝央町の概要と調査の経緯	3
第2節 平成15年度～平成17年度の調査について	3
第3章 埋蔵文化財試掘・確認調査の概要	5
第1節 平成15年度（2003年度）実施の調査成果	5
1. ほきの平散布地確認調査（H15-1）	5
2. 舞台裏遺跡確認調査（H15-2）	6
3. 森原散布地確認調査（H15-3）	7
4. 豊久田中地内試掘調査（H15-4）	9
5. 石生地内試掘調査（H15-5）	10
第2節 平成16年度（2004年度）実施の調査成果	12
1. 大河内遺跡確認調査（H16-1）	12
2. 河内古墳群確認調査（H16-2）	13
3. 釜屋散布地確認調査（H16-3）	15
4. 平散布地確認調査（H16-4）	16
第3節 平成17年度（2005年度）実施の調査成果	18
1. 大河内遺跡確認調査（H17-1）	18
2. 大河内遺跡確認調査（H17-2）	20
3. 黒坂地内試掘調査（H17-3）	21
4. 及遺跡確認調査（H17-4）	22

# 図 版 目 次

## 平成15年度実施

- 図版1 ほきの平遺跡全景(東から)  
〃 T1(北から)  
〃 T2(北から)  
〃 出土遺物  
舞台裏遺跡遠景(北から)  
〃 T1(東から)  
〃 T2(東から)  
〃 T3(南から)

- 図版6 釜屋散布地T1土層断面(南から)  
〃 T2(西から)  
〃 出土遺物  
平散布地遠景(西から)  
〃 T1(南から)  
〃 T2(北から)  
〃 T3(南から)  
〃 T4(南から)

- 図版2 森原散布地遠景(南から)  
〃 T1(北から)  
〃 T2(北から)  
〃 T3(西から)  
〃 T5(西から)  
〃 T6(西から)  
豊久田中地内遠景(南から)  
〃 T1(南から)

## 平成17年度実施

- 図版7 大河内遺跡(H17-1)遠景(南から)  
〃 T1(北から)  
〃 T2(北から)  
〃 T3(北から)  
〃 T4(北から)  
〃 出土遺物  
大河内遺跡遠景(南から)  
〃 T1(東から)

- 図版3 豊久田中地内T2(南から)  
〃 T3(東から)  
石生地内T1(東から)  
〃 T2(東から)  
〃 T3(東から)  
〃 T4(東から)  
〃 T5(東から)  
〃 T6 鋤溝検出状況(東から)

- 図版8 大河内遺跡(H17-2)T2(西から)  
〃 出土遺物  
黑板地内遠景(西から)  
〃 T1(北から)  
及遺跡遠景(南から)  
〃 T1(北から)  
〃 T2(北から)  
〃 T3(東から)

## 平成16年度実施

- 図版4 大河内遺跡(H16-1)遠景(西から)  
〃 T1(西から)  
〃 T1土層断面(南から)  
〃 T2(西から)  
〃 T2土層断面(南から)  
〃 T3(東から)  
河内古墳群遠景(北から)  
〃 T1(北から)

- 図版9 及遺跡T4(北から)  
〃 T5(東から)  
〃 遠景(東から)  
〃 T6(西から)  
〃 T7(北から)  
〃 T8(東から)  
〃 T9(東から)  
〃 T10(東から)

- 図版5 河内古墳群T2(北から)  
〃 T3(北から)  
〃 T4(北から)  
〃 T5(南から)  
〃 T6(南から)  
〃 T7(北から)  
釜屋散布地遠景(北から)  
〃 T1(西から)

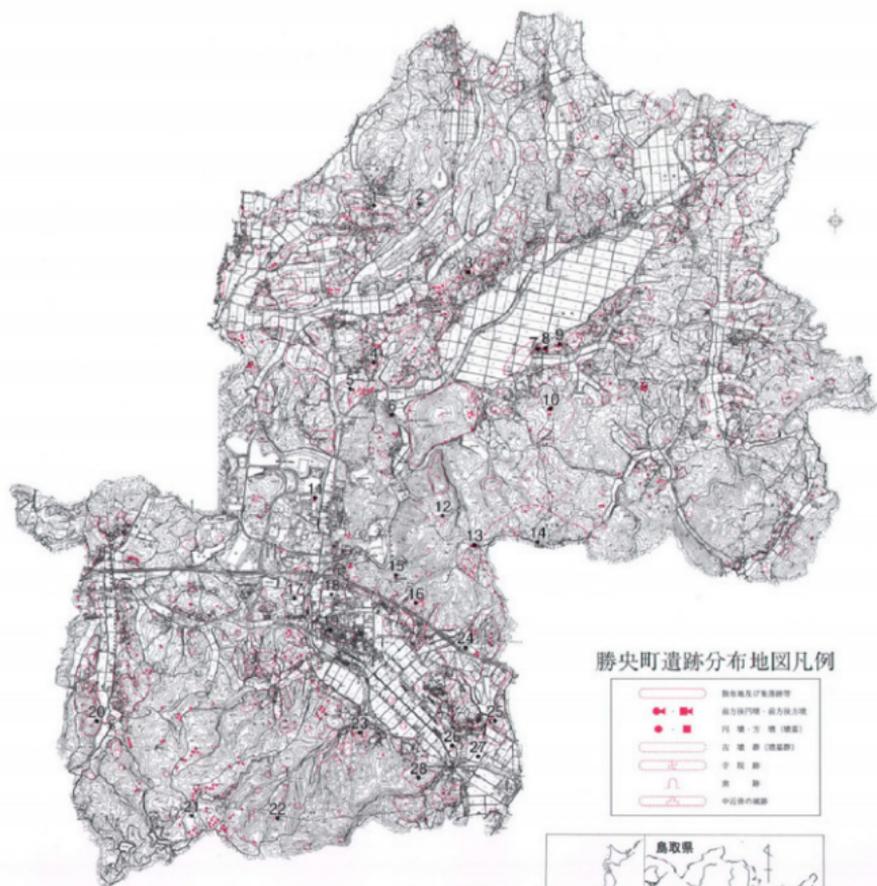
- 図版10 及遺跡T11(東から)  
〃 T12(東から)  
〃 T13(北から)  
〃 T14(北から)  
〃 T15(南から)  
〃 T16(南から)  
〃 出土遺物  
〃 出土遺物

## 第1章 地理的・歴史的環境

勝央町は南方に緩やかに傾斜する標高100m～200mの丘陵台地にある。町の北部は那岐山、滝山などの中国山地を背に受けて日本原高原から緩やかな丘陵が起伏した台地を形成し、町の中南部は滝山に源を發し、町の中心を南北に流れ、岡山三大河川の吉井川に注ぐ滝川に沿って比較的平坦な盆地・平野を形成している。豊かな土地にあって古来より多くの人々が生活していたようで勝央町内には現在までに約800箇所の遺跡が確認され、県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地帯となっている。以下、町内の主要な遺跡の概要を述べ歴史を概観する。

まず、町内最古の遺跡としては、縄文草創期の尖頭器や石鏃などが最近調査された大河内遺跡でまとまって出土している。その他、縄文時代前期の押型土器が金鶏塚遺跡などで採集されている。弥生時代では前期に遡る土壘墓が大河内遺跡で発見されているが、中期以降に多くの集落が展開する。中期後葉から後期では、北部の鳥羽野周辺において銅鐸が出土している念仏塚遺跡を中心に、台地上に広範囲に集落が展開する。南部では滝川下流域の拠点的な集落と考えられる小中遺跡があり、建替を含め300軒を越す住居が確認されている。後期末～古墳初頭には、最近の調査により土居遺跡、宮ノ上遺跡において住居跡が発見され集落像が明らかになった。続く古墳時代では、町内全域に多くの古墳が存在している。前期には、北部の植月・美野は美作最大の植月寺山古墳（全長約90m）や美野高塚古墳（全長約70m）等を初め多くの前期～中期の前方後墳が密集する特異な地域となっている。さらに南部の勝間田周辺でも前方後墳の岡高塚古墳（全長56m）、前方後円墳の琴平山古墳（全長48m）、殿塚古墳（全長48m）が存在する等、多くの首長墓が認められる。中期では前方後円墳の愛宕山古墳（全長28m）、よつみだわ2号墳（全長20m）が存在し、最近調査され銅鏡2面が出土した中期前半の宮ノ上古墳もある。中期後半～後期には多くの群集墳が確認されている。堅穴系を主体とする広高下古墳群や東光寺古墳群、後期後半には横穴式石室を中心とする奥の院古墳群や高塚古墳群が存在する。一部の古墳からは美作に特徴的な陶棺が出土している。奈良時代～平安時代には勝田郡衙に比定される勝間田・平遺跡があり、正庁と見られる大型建物が検出され、瓦や硯など特徴的な遺物が出土している。その他、小中遺跡でわずかに奈良時代の掘立柱建物が確認されている以外は一般集落については不明な点が多い。平安時代末～鎌倉時代にかけては、間山周辺もしくは畑屋・東吉田一帯で須恵器系中世陶器である勝間田焼の窯が50基以上確認されており、勝間田古窯跡群と呼称されている。戸岩窯や進上谷窯の成果から日常雑器を中心に生産していたことが判明しており、美作を中心に一部は播磨や山陰地域にも流通している。集落跡では土師器窯が発見された石仏上遺跡、大型掘立柱建物が発見された藤ヶ瀬遺跡、及遺跡など消費地の調査例が増加している。中世後期の城館では植月宮山城や小矢田城が代表的なものである。近世には参勤交代のため出雲街道の宿場町として勝間田が整備された。

※本文は、勝央町文化財調査報告第4集『福吉丸山遺跡』「第2章 遺跡の位置と環境」勝央町教育委員会 1999 の内容を元に、一部最近の成果を取り入れたものである。



勝央町遺跡分布地図凡例



- |            |             |            |
|------------|-------------|------------|
| 1. 島野野遺跡群  | 11. 愛宕山古墳   | 21. 七十古墳群  |
| 2. 念仏塚遺跡   | 12. 河内奥窟    | 22. 進上谷窟   |
| 3. 植月寺山古墳  | 13. 岡高塚古墳   | 23. 東光寺古墳群 |
| 4. 宮山城     | 14. 間山高福寺跡  | 24. 小中道跡   |
| 5. 広高下古墳群  | 15. 琴平山古墳   | 25. 小池谷遺跡  |
| 6. 戸岩窟     | 16. 殿塚古墳    | 26. 藤ノ瀬遺跡  |
| 7. 西宮神社裏古墳 | 17. 勝岡田・平道跡 | 27. 大河内道跡  |
| 8. 美野中塚古墳  | 18. 石仏上遺跡   | 28. 小矢田城   |
| 9. 美野高塚古墳  | 19. 勝岡田宿場跡  |            |
| 10. 田井高塚古墳 | 20. 神田山城    |            |



第1図 遺跡分布地図 (1/40000)

## 第2章 調査の経緯と経過

### 第1節 勝央町の概要と調査の経緯

岡山県の北部地域は中国山地を背後に控えた山間地帯であるが、県北の中央に位置する中核都市である津山市の周辺には大きな平野や、なだらかな盆地帯が広がっており、古来より発展してきた地域である。その東に隣接する勝央町内には、現状で800箇所以上の埋蔵文化財包蔵地が存在しており、さらに増加する可能性がある。

勝央町は、総面積約53km<sup>2</sup>、人口1万1千人の小さな町である。農業を中心とするが、中国地方でも有数の工業団地があり、工業も盛んな地域である。近年、町の中心部である勝岡田地区を中心に市街化が進み、宅地造成やアパート建設などが増加傾向にある。この状況下、町では平成11年度～平成14年度に国庫補助事業として町内全域を対象とした遺跡分布調査を実施し、詳細な遺跡分布地図を作製して、遺跡の基礎資料を充実させた。この結果、当然のことながら開発事業に伴う埋蔵文化財の協議件数も増加することとなったため、平成15年度から国庫補助事業として開発事業に先立つ町内遺跡の試掘・確認調査を実施することとなり、開発と文化財保護の協議が円滑に進むよう努めている現状である。近年の開発の傾向としては、民間・公共ともに大規模な事業は少なくなっているものの、依然、公共事業では小規模な道路工事が比較的多い。また民間開発では共同住宅等の宅地造成が多くを占めている。

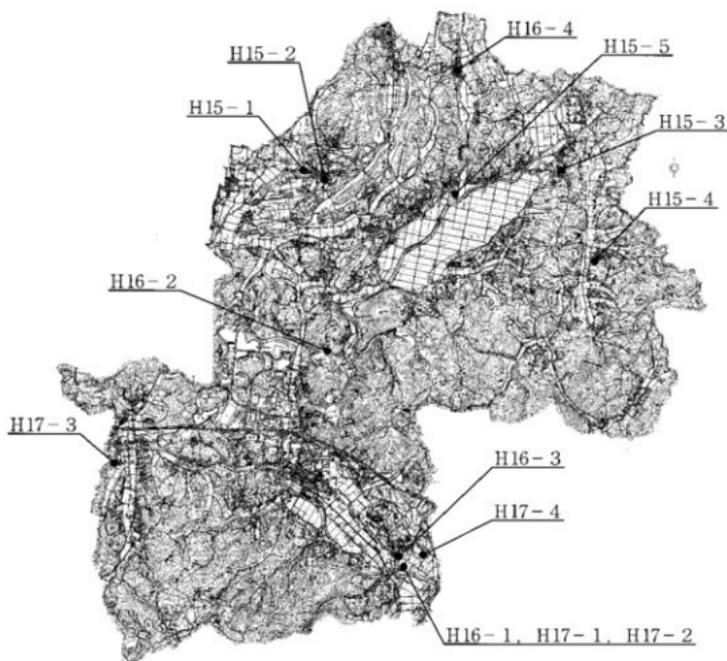
### 第2節 平成15年度～平成17年度の調査について

平成15年度～平成17年度国庫圃場事業により実施した試掘・確認調査件数は13件で別表1のとおりである。以下、各年度の主要な成果を述べる。

平成15年度は5件の試掘調査を実施した。このうち、ほきの平遺跡（H15-1）では弥生時代の包含層を確認し、弥生土器が出土している。また、柱穴・土壙の確認された舞台裏遺跡（H15-2）、森原散布地（H15-3）の2件については全面調査を実施することとなった。いずれも内容不明の散布地であったが、弥生時代の集落という新発見が得られた。平成16年度は4件の試掘・確認調査を実施した。このうち、新規発見の大河内遺跡（H16-1）は、町内では珍しい平野部における弥生時代の集落と判明した。古墳、段状遺構が検出された河内古墳群（H16-2）については、既存の古墳を含め、全面調査を実施している。釜屋散布地（H16-3）では中世の包含層を確認している。平成17年度は4件の試掘・確認調査を実施した。平成16年度に発見された弥生時代～中世の集落である大河内遺跡（H17-1・2）は、今年度の調査成果により南北100m以上に及ぶ弥生時代中期末を中心とした集落と判明した。また、及遺跡（H17-4）は広範囲の試掘調査により中世後期を中心とした集落と判明し、全面調査を実施した。

年度番号	遺跡名	所在地	開発種別	調査期間	調査面積	開発物の有無	備考
H15 1	ほきの平散布地	植月北	公共事業・道路	H15.5	10	有	立会
H15 2	舞台裏遺跡	植月北	公共事業・道路	H15.5	48	有	本調査
H15 3	森原散布地	河原	公共事業・道路	H15.5～6	42	有	本調査
H15 4	豊久田中地内	豊久田	公共事業・道路	H15.10	7		
H15 5	石生地内	石生	公共事業・道路	H15.10～11	35		
H16 1	大河内遺跡	黒土	民間開発・駐車場	H16.6	32	有	盛土保存
H16 2	河内古墳群	植月中	公共事業・駐車場	H16.6～7	288	有	本調査
H16 3	釜屋散布地	黒土	民間開発・宅地造成	H16.8～9	46	有	盛土保存
H16 4	平散布地	下町川	公共事業・道路	H17.2～3	16		
H17 1	大河内遺跡	黒土	民間開発・店舗	H17.4	40	有	盛土保存
H17 2	大河内遺跡	黒土	民間開発・駐車場	H17.5	22	有	盛土保存
H17 3	黒板地内	黒坂	民間開発・宅地造成	H17.7	12		
H17 4	及遺跡	黒土	公共事業・道路	H17.6～7 H17.10～11	208	有	本調査

表1 試掘一覧表



第2図 試掘位置図 (1/60000)

## 第3章 埋蔵文化財試掘・確認調査の概要

### 第1節 平成15年度（2003年度）実施の調査成果

#### 1. ほきの平散布地確認調査（H15-1）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町植月北3798ほか

（工事内容） 道路建設

（調査期間） 平成15年5月20日～5月22日

（調査面積） 約10㎡

（調査の概要）

植月北地内において鳥羽野田中線改良工事が計画された。周辺には、ほきの平散布地が存在することから事前に確認調査を実施することとなった。工事予定位置にトレンチを2箇所設定し、人力で掘り下げを行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1

30×15mのトレンチを設定した。地層はほぼ水平堆積で、層序は表土、圃場造成土が存在し、その下層から弥生土器、植物遺体を僅かに包含する黒褐色粘質土が確認された。地表下1.4mで地山に達する。遺構は確認されなかった。出土遺物は少ないが、弥生土器、須恵器、自然木片がある。

T2

3.5×1.5mのトレンチを設定した。地層はやや谷側に下がるか、ほぼ水平堆積で、層序はT1と同じであるが、黒褐色粘質土の下層に黒色粘土層が確認され、比較的多くの弥生土器を包含していた。地表下1.4mで地山に達する。地山面では遺構は確認されなかった。出土遺物は、須恵器、弥生土器、自然木片である。出土した弥生土器には壺1・5、甕2・4・6、高杯7・8がある。

（調査結果）

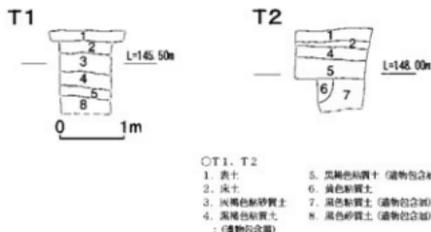
以上の結果から、今回の試掘では直接的に遺跡の痕跡を示すものは確認されなかった。しかし、トレンチ最下層に弥生土器を含む包含層が確認されたことや、丘陵斜面の崖面に土壌状の落ち込みが確認される等、丘陵上に弥生時代の集落が存在する可能性が高い。

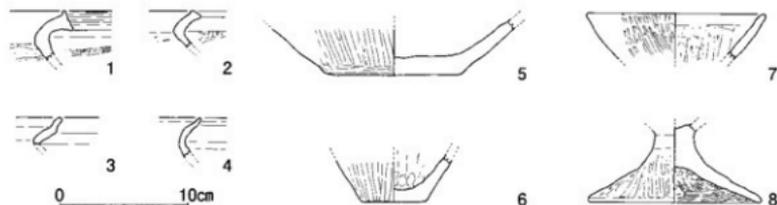


第3図 調査位置図 (1/40000)



第4図 トレンチ位置図 (1/5000)・断面図 (1/80)





第5図 出土土器 (1/4)

## 2. 舞台裏遺跡確認調査 (H15-2)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町植月北2664-1ほか

(工事内容) 道路改良

(調査期間) 平成15年5月23日～5月26日

(調査面積) 約48㎡

(調査の概要)



第6図 調査位置図 (1/40000)

勝央町植月北・中地内にまたがる鳥宮線の建設が計画された。予定地は周知の舞台裏散布地、大谷荒神散布地等に該当することから、事前に確認調査を実施することとなった。調査は、丘陵頂部に3箇所、谷部の水田に2箇所の試掘トレンチを設定した。表土等は重機で除去した後、人力で掘り下げを行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T 1

3.0×4.0mのトレンチを設定した。表土下35cmで黄色粘土層の地山に達する。表土直下は20cm程の黒色砂質土層が堆積しており、弥生土器をわずかに包含する。旧地形をよく留めており、地山面で直径20cmの柱穴8基、直径30cmの土壇1基を確認した。

T 2

3.0×6.0mのトレンチを設定した。碎石敷の直下で地山に達する。地山上で直径約1mの不整形の土壇を確認した。

T 3

3.0×6.0mのトレンチを設定した。碎石敷の直下で地山に達する。削平が著しいが、地山上で直径70cmの土壇を確認した。

T 4

丘陵裾の谷部に2.0×2.0mのトレンチを設定した。表土下20cmで地山の黄色砂質層に達する。圃場整備により削平されている状況である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 5

谷部に2.0×1.5mのトレンチを設定した。表土下30cmで地山の黄色砂質層に達する。圃場整備により削平されている状況である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

(調査結果)

以上の結果から、丘陵上は台地開発による削平が著しいものの、丘陵上を中心に弥生時代の集落が



第7図 トレンチ位置図 (1/2500)・平面図 (1/400)

広がっていると考えられる。

### 3. 森原散布地確認調査 (H15-3)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町河原1468-1

(工事内容) 道路改良

(調査期間) 平成15年5月28日～6月2日

(調査面積) 42㎡

(調査の概要)

勝央町河原地内において森原線の改良工事が計画された。予定地は周知の森原散布地に該当することから、事前に確認調査を実施することとなった。調査は丘陵頂部に4箇所、北斜面に2箇所の試掘トレンチを設定して行った。人力で掘り下げを行い、遺構の検出・確認を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

#### T1

3.0×3.0mのトレンチを設定した。表土直下35cmで黄色粘土層の地山に達する。表土下からは黒ボク層の堆積が確認された。出土遺物はわずかに弥生土器片が出土している。



第8図 調査位置図 (1/40000)

T 2

3.0×3.0mのトレンチを設定した。表土直下20cmで地山に達する。包含層は残っていないが地山上で柱穴を確認した。出土遺物はわずかに弥生土器片が出土している。

T 3

4.0×2.0mのトレンチを設定した。削平により表土直下ですぐ地山に達する。柱穴2基、土壌1基を確認した。柱穴は住居跡の可能性ある。

T 4

2.0×3.0mのトレンチを設定した。削平が著しく、表土直下で地山に達する。

T 5

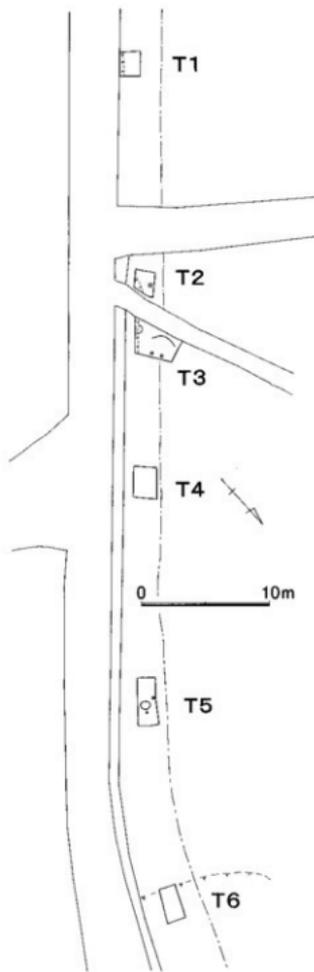
4.0×1.5mのトレンチを設定した。表土下わずかに黒ボク層がみられ、約20cmで地山に達する。地山上で土壌1基を確認した。出土遺物は、わずかに弥生土器片が出土している。

T 6

3.0×1.5mのトレンチを設定した。表土下70cmで地山に達する。層序は表土、造成土、褐色砂質層、黒ボク層、地山である。出土遺物は、わずかに弥生土器片が出土している。

(調査結果)

以上の結果から、森原散布地は弥生時代を中心とする集落跡と判明した。頂部から北斜面のため、遺構密度は低く、集落の中心は西側に延びる丘陵上に存在するものと考えられる。



第9図 トレンチ位置図 (1/2500)・平面図 (1/400)

## 4. 豊久田中地内試掘調査（H15-4）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町豊久田2093ほか

（工事内容） 道路改良

（調査期間） 平成15年10月22日～10月24日

（調査面積） 約7㎡

（調査の概要）



第10図 調査位置図 (1/40000)

豊久田中地内において豊中1号線改良工事が計画された。予定地は南に隣接して周知の畝後土井散布地が存在することから、事前に試掘調査を実施して遺跡の有無を確認することとなった。試掘トレンチを3箇所設定し、人力で表土・床土を除去、包含層の掘り下げ後、遺構検出を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1

2.2×1.2mのトレンチを設定した。地表下80cmで地山に達する。地層はほぼ水平堆積で、層序は表土、造成土、その下層から青灰色粘質土、地山の青白色砂礫層が確認された。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T2

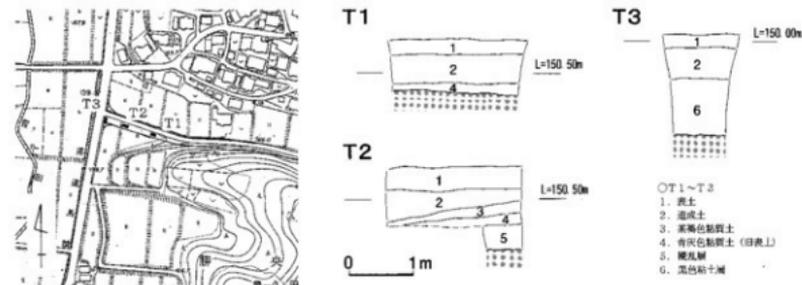
2.1×0.8mのトレンチを設定した。地表下1.3mで地山に達する。層序は表土、造成土が存在し、造成土直下で地山の青白色砂礫層が確認された。大きく攪乱を受け、地山面で遺構は確認されなかった。出土遺物は、植物遺体の他、青磁小片が出土した。

T3

2.0×1.2mのトレンチを設定した。地表下1.6mで地山に達する。地層は水平堆積で、層序は表土、圃場造成土、その下層から黒色粘質土、地山の青白色砂礫層が確認された。黒色粘質土は約90cmと厚く植物遺体を僅かに包含する。遺構・遺物ともに確認されなかった。

（調査結果）

以上の結果から、今回の試掘調査では遺跡の痕跡は確認されなかった。地層の堆積状況から、周辺は谷の一部にあたると考えられ、埋没した時期などは不明である。また、造成土中から青磁片が出土しており、周辺に中世～近世の遺跡が存在する可能性がある。



第11図 トレンチ位置図 (1/5000)・断面図 (1/80)

## 5. 石生地内試掘調査（H15-5）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町石生1687-1ほか

（工事内容） 道路改良

（調査期間） 平成15年10月28日～11月17日

（調査面積） 約35㎡

（調査の概要）



第12図 調査位置図（1/40000）

石生地内において町道下町川1号線が計画された。予定地は周知の石生前散布地の隣接地であり、遺跡の広がる可能性があることから、事前に試掘調査を実施することとなった。調査は道路拡張予定地の水田を対象に行った。トレンチを6箇所設定し、包含層の掘り下げ後、遺構検出を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T 1

3.0×1.5mのトレンチを設定した。地表下50cmで地山に達する。層序は表土、旧表土、圃場造成土、地山である灰色砂礫層の順である。地山面では遺構は確認されなかった。出土遺物は、須恵器小片、自然木片が出土している。

T 2

3.0×1.0mのトレンチを設定した。地表下50cmで地山に達する。層序はT 1と同様である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 3

4.0×2.0mのトレンチを設定した。地表下45cmで地山に達する。層序はT 1と同様である。地山面では遺構は確認されなかった。出土遺物は、須恵器片が出土している。

T 4

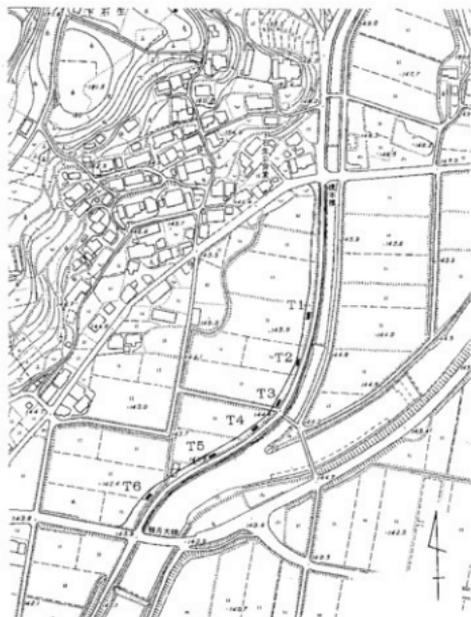
3.5×1.5mのトレンチを設定した。地表下50cmで地山に達する。層序はT 1と同様である。付近は圃場整備により大きく攪乱を受けている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 5

4.0×1.5mのトレンチを設定した。地表下40cmで地山に達する。層序はT 1と同様である。付近は圃場整備により大きく攪乱を受けている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 6

4.0×2.0mのトレンチを設定した。

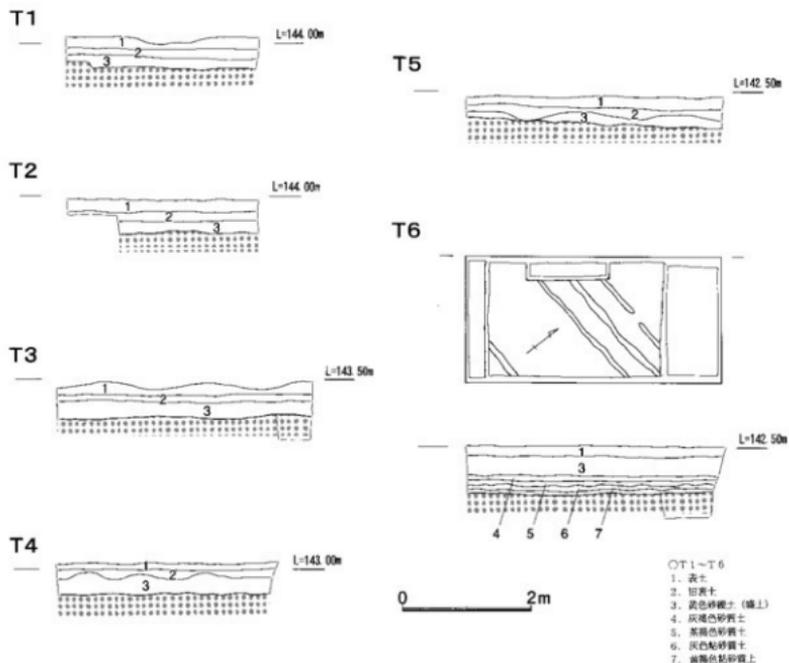


第13図 トレンチ位置図（1/5000）

地表下70cmで地山に達する。層序はT1～5と全く異なり、厚い粘土層の堆積が認められる。層位は表土、圃場造成土、灰褐色砂質土、茶褐色砂質土、灰色粘砂土、黄褐色粘砂土、地山の順である。黄褐色粘砂土層は灰色粘砂土が混じり、やや乱れた層である。遺構は、灰色粘砂質土面で、鋤溝と思われる小溝が4条確認された。詳細時期は不明だが、中世～近世と考えられる。地山面では遺構は確認されなかった。遺物はわずかに須恵器、勝間田焼、弥生土器等が出土している。

#### (調査結果)

以上の結果から、今回の試掘調査の範囲では遺跡の痕跡を示すものは確認されなかった。圃場整備以前に存在した旧岩倉川の東岸にあたるT1～5は地山レベルが南に徐々に下がるものの、ほぼ平坦地である。削平のためか、包含層を含め遺跡は確認されなかった。西岸にあたるT6では、鋤溝と中世～近世の遺物包含層が確認されていることから、丘陵裾にかけて中世～近世の集落が存在する可能性が高い。



第14図 トレンチ平面・断面図 (1/80)

## 第2節 平成16年度（2004年度）実施の調査成果

### 1. 大河内遺跡確認調査（H16-1）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字大河内781-14

（工事内容） 駐車場造成

（調査期間） 平成16年6月22日～6月23日

（調査面積） 約32㎡

（調査の概要）

黒土地内において民間の駐車場造成が計画された。予定地は大河内散布地に隣接しており、遺跡の実態が不明であることから、事前の確認調査を実施することとなった。調査ではT1～3の3箇所にトレンチ（試掘溝）を設定した。重機で表土・造成土を除去、人力により包含層を掘削し、遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

#### T1

計画地の東側に2.0×5.0mのトレンチを設定した。地表下45cmで地山に達する。層序は表土、圃場造成土、黒褐色砂質土層、地山である黄色砂質土の順である。黒褐色砂質土層からは弥生～中世までの土器片が出土する包含層と考えられる。地山面からは柱穴4基が検出された。その他、風倒木痕が確認された。出土遺物は、小片が多いが、弥生土器、須恵器、勝間田焼などが出土している。

#### T2

計画地中央に2.0×5.3mのトレンチを設定した。地表下40cmで地山に達する。層序は表土、圃場造成土、地山の順である。包含層は削平を受けている。地山面で柱穴11基、土壌1基が検出された。柱穴の一つは50cmの深さがあり、建物の一部と考えられる。出土遺物は、弥生土器等の遺物が出土している。

#### T3

計画地西側に2.0×6.0mのトレンチを設定した。地表下38cmで地山に達する。層序は表土、圃場造成土、地山の順である。西側は攪乱を受けていた。地山面で柱穴2基が検出された。埋土は黒褐色土で、柱穴から弥生土器片が出土している。

（調査結果）

調査の結果、すべてのトレンチにおいて、遺構・遺物が発見

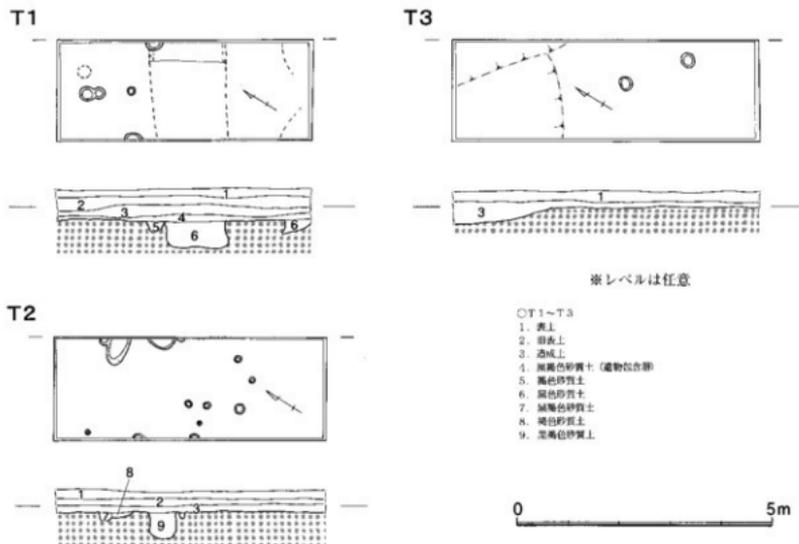


第15図 調査位置図 (1/40000)



第16図 トレンチ位置図 (1/5000)

された。遺構では、地山面において弥生～中世の遺構が同一面で検出される。T1においては中世の包含層がわずかに残存し、周辺の地形は東と南に下っていくことが判明した。出土遺物でも同一時期の土器が多く出土していることから、その時期の集落遺跡が一带に広がると考えられる。



第17図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

## 2. 河内古墳群確認調査 (H16-2)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町植月中675-1ほか

(工事内容) 駐車場造成

(調査期間) 平成16年6月28日～7月23日

(調査面積) 288㎡

(調査の概要)



第18図 調査位置図 (1/40000)

植月中地内において長尾山斎場の駐車造成が計画された。予定地内は、周知の河内古墳群として3基の古墳（6～8号墳）が確認されているが、これらの古墳以外にも埋没する新規の古墳や下層の集落遺跡などが存在する可能性が考えられたため、事前の試掘調査を実施することとなった。調査は工事予定地内に7箇所のトレンチを設定して行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1

6号墳の東側に20×25mのトレンチを設定した。層序は表土、黄色砂質土、地山の順である。ここではトレンチの途中で段状遺構が確認された。埋土は褐色砂質土である。遺構埋土中からの出土遺物はないが、周辺からは須恵器片、土師器片が出土している

T 2

7号墳の北側に20×25mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同様である。トレンチ南端では7号墳に伴う周溝を検出した。その他、遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 3

7号墳の東側に40×25mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同様である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 4

8号墳の北側に12×20mのトレンチを設定した。付近は緩やかな地形になっている。基本層序はT 1と同様である。表土直下で遺構面に達し、その面で小規模なピット2基、土壌を検出した。出土遺物は、須恵器片、土師器片のみである。

T 5

8号墳の東側に緩やかな斜面から急斜面にかけて30×20mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同様である。地山面上では遺構は確認できなかった。出土遺物は、須恵器片が出土した。

T 6

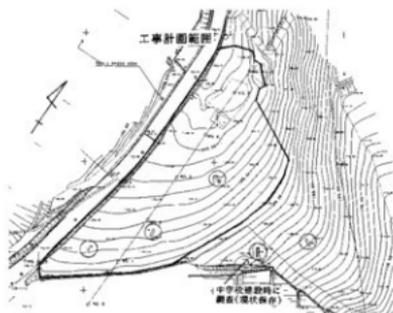
平坦面に23×20mのトレンチを設定した。丘陵をカットし、その土を斜面に盛り、平坦面を造成している。出土遺物は、近世以降の備前焼、陶磁器片のみである。遺構は確認されなかった。

T 7

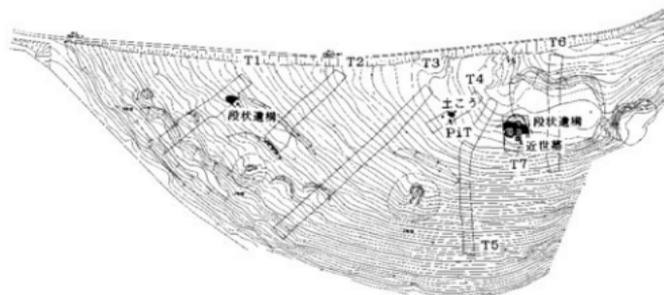
当初、墓地となっていた箇所である。7.0×5.0mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同様である。検出された遺構は、近世以降の墓5基その他、断ち割りで確認された茶褐色層も何らかの遺構の可能性はある。遺物は出土しなかった。

#### (調査結果)

以上の確認調査の結果、T 1で段状遺構、T 4でピット・土壌、T 7で不明遺構が確認された。T 1・4では周囲で古墳時代の遺物が出土していることからその時期の遺構と考えられる。またT 6・



第19図 調査位置図 (1/2000)



第20図 トレンチ位置図 (1/1000)

7付近は近世の遺構が中心と考えられる。これにより河内6～8号墳の3基のほか、T1の一部、T4～7の緩斜面について遺跡の存在が明らかとなった。

### 3. 釜屋敷布地確認調査（H16-3）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字大河内762-1ほか

（工事内容） 共同住宅建設

（調査期間） 平成16年8月31日～9月1日

（調査面積） 約46㎡

（調査の概要）

黒土地内において共同住宅の建設工事が計画された。予定地には周知の埋蔵文化財包蔵地である釜屋敷布地が存在することから、事前に確認調査を実施することとなった。

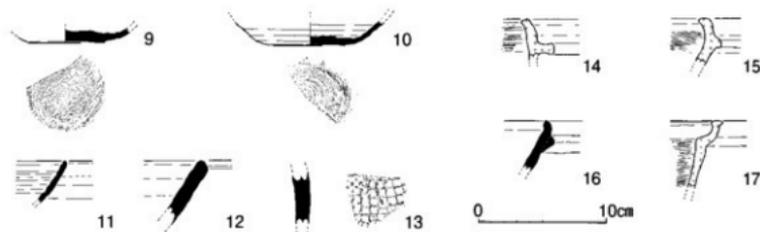
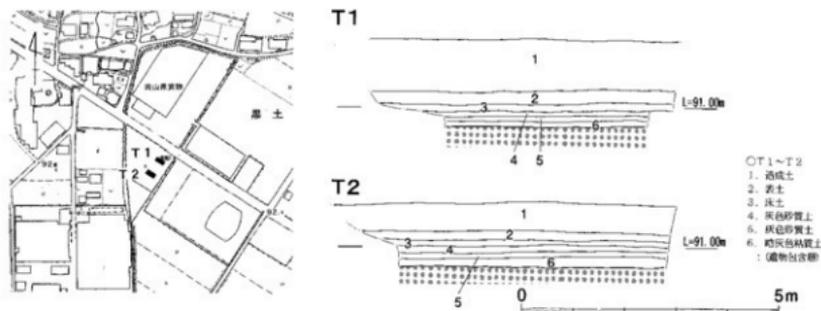
調査では、工事予定範囲内にT1・2の2箇所のトレンチ（試掘溝）を設定した。まず重機で表土・造成土等を除去し、人力により包含層を掘削し、遺構面の確認・精査を行った。調査終了後は重機により埋め戻しを行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1

計画地の東北側に30×60mのトレンチを設定した。基本層序は上層から造成土、表土、床土、灰色砂質土層2面、暗灰色粘質土層、地山である黄色粘質土層である。灰色砂質土層は圍場整備以前の



第21図 調査位置図（1/40000）



第22図 トレンチ位置図（1/5000）・断面図（1/100）・出土土器（1/4）

層と考えられ、中世の土器片が少量出土する。その下層の暗灰色粘質土も中世の土器を多く含む包含層であるが、量が比較的多いものの小片が多い。地山面で精査を行ったが、遺構は検出されなかった。出土遺物は、須恵器、土師器、勝間田焼等が出土している。

#### T 2

計画地の東南側に3.7×7.6mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同様である。ここでも地山面で精査を行ったが、遺構は検出されなかった。出土遺物は、須恵器、土師器、勝間田焼等が出土している。

図化できた出土遺物では、勝間田焼の碗9～11、こね鉢12、甕13、瓦質土器の羽釜14・15、鍋17がある。16は須恵質のため、勝間田焼の羽釜の可能性はある。

#### （調査結果）

調査の結果、2箇所のトレンチにおいて、遺構は存在しないが、遺物包含層及び土器等の遺物が検出された。一体はやや地形の低い場所のようで、周辺の集落遺跡から流れ込んで堆積したものと考えられる。遺物は中世期の土器が多く認められることから、この時期の集落遺跡のやや縁辺部にあたるかと推定される。

### 4. 平散布地確認調査（H16-4）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町下町川222-1ほか

（工事内容） 道路改良

（調査期間） 平成17年2月22日～3月1日

（調査面積） 約16㎡

#### （調査の概要）

下町川地区において、下町川支線の建設が計画された。予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である平散布地に近接した位置にあたるため、事前の試掘調査を実施することとなった。

試掘調査では、工事予定範囲内にT 1～4の4箇所のトレンチ（試掘溝）を設定した。いずれも本来は丘陵台地上と考えられる位置である。調査では表土から包含層すべて人力で掘削し、地山精査、遺構検出を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

#### T 1

台地の付根部に1.4×3.5mのトレンチを設定した。表土を除去すると、クロボク層である黒褐色粘質土層が検出された。この層は20cmの堆積であるが、遺物は含まれなかった。灰褐色砂質土層を挟んで、表土下50cmで黄色砂質土の地山が検出された。遺構・遺物は検出されなかった。

#### T 2

台地上に1.8×3.0mのトレンチを設定した。表土・造成土を除去すると、クロボク層である黒褐色砂質土、さらに下から黄色粘質土の地山が検出された。地山上で風倒木痕を検出したのみである。埋土は黒灰色砂質土である。遺物は出土しなかった。

#### T 3

台地上に1.3×3.5mのトレンチを設定した。表土以下の基本層は、褐色砂質土層、クロボク層である黒褐色粘質土層で、表土下80cmで地山に達する。西半は水路溝により攪乱を受けていた。黒褐色粘



第23図 調査位置図 (1/40000)

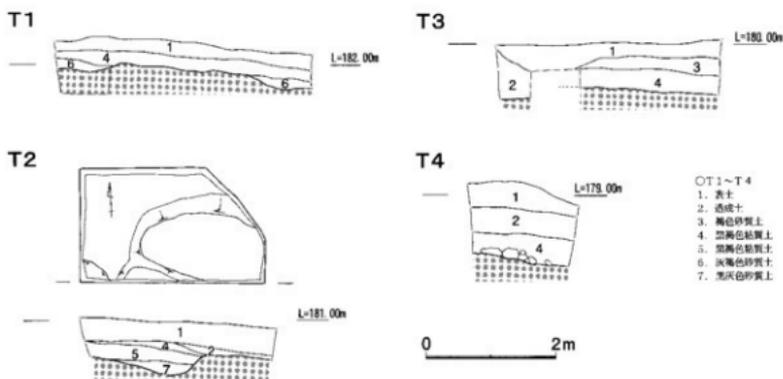
質土層に自然礫が含まれていた。遺構・遺物は確認されなかった。

#### T 4

台地やや斜面部に0.8×1.6mのトレンチを設定した。表土以下の基本層は、褐色砂質土層、クロボク層である黒褐色粘質土層で、表土下1mで地山に達する。黒褐色粘質土層に自然礫が多く含まれていた点はT3と共通する。遺構・遺物は確認されなかった。

#### (調査結果)

調査の結果、すべてのトレンチでクロボク層である黒褐色粘質土層、地山が確認され、旧地形を留めていたが、遺構・遺物は確認されなかった。今回の調査地は全体的に湧水が激しく、周辺に井戸を掘削していることも考え合わせると、やや東に延びる小さな谷筋にあたると思われる。立地としては比較的安定した台地であり、周辺に遺跡が存在する可能性が考えられる。



第24図 位置図 (1/5000)・トレンチ位置図 (1/1000)・トレンチ平面・断面図 (1/80)

## 第3節 平成17年度（2005年度）実施の調査成果

### 1. 大河内遺跡確認調査（H17-1）

〔所在地〕 岡山県勝田郡勝央町黒土字大河内768-2ほか

〔工事内容〕 店舗建設

〔調査期間〕 平成17年4月13日～4月26日

〔調査面積〕 約40㎡

〔調査の概要〕

勝央町黒土地内において店舗建設が計画された。予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である大河内遺跡に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。調査は構造物建設範囲に4箇所の特レンチを設定した。耕作土等は重機により除去後、人力により包含層を掘削し、遺構検出を行った。以下、各特レンチの概要を述べる。

#### T 1

予定地南東端に3.9×2.4mの特レンチを設定した。造成土を含めて地表下1.8mで地山を確認した。地山は西に傾斜しており、その上に黒褐色の遺物包含層が堆積する。遺構は包含層下の灰褐色面下ピット4基・溝1基が確認された。時期は包含層の土器が弥生時代中期後半と考えられ、遺構も同時期と考えられる。出土遺物では、弥生土器、須恵器、中世の勝間田焼も出土している。

#### T 2

予定地南西端に6.4×2.2mの特レンチを設定した。造成土を含めて地表下1.9mで地山を確認した。地山は南に傾斜している。地層の状況はT1と同様である。遺構は、ピット4基、土壇、溝、杭等が確認された。時期は弥生時代中期後半と考えられる。出土遺物では、黒褐色層から弥生時代中期後半を中心とする土器が大量に出土し、土器だまり状になっていた。

#### T 3

予定地北西端に5.0×2.5mの特レンチを設定した。地表下1.3m下で旧表土の灰色粘砂層に達し、それより下層には青灰色系の粘質土が5層も堆積し、地表下1.6mで地山を確認した。地山面上は灰色粘質土と地山土の混土となっている。地山は北東に傾斜している。明確な遺構は確認されなかった。出土遺物は、地山直上の青灰色粘質土層から弥生土器片が出土しているほか、上層では勝間田焼、土師器が少量出土している。

#### T 4

予定地北東端に2.5×2.0mの特レンチを設定した。造成土を含めて地表下1.7mで旧表



第25図 調査位置図 (1/40000)



第26図 トレンチ位置図 (1/5000)

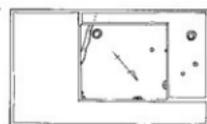
土下の灰色粘質土、3.1mで地山を確認した。層序はT3と同じである。地山はかなり下がっている。地山面で遺構を確認した。検出された遺構は土壇3基である。形は不整形で埋土は混土で人為的に埋めている。時期は少量の弥生土器から、弥生時代のものと考えられる。

図化した出土遺物は、弥生土器で、中期後半頃の特徴をもつ。広口長頸壺18・19、広口壺20、甕21・22、器台23、高杯24がある。すべてT2からの出土である。

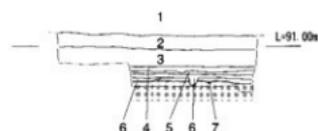
#### (調査結果)

調査の結果、T3を除いて、遺構・遺物が確認され、大河内遺跡の広がりがある今回の調査地にまで及ぶことが確認された。特にT1・2では柱穴、土壇、杭などの弥生時代の遺構が検出された。またT2からは非常に多くの弥生土器の堆積が確認された。T4では遺構が確認されたが、T3同様やや遺跡の縁辺部にあたると思われる。その他、中世の勝間田焼も出土していることから、大河内遺跡は弥生時代～中世にかけての集落遺跡と考えられ、付近一帯大きく広がることが予想される。

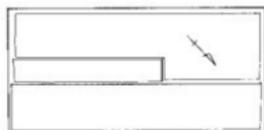
#### T1



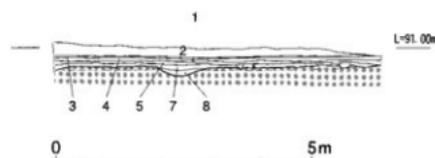
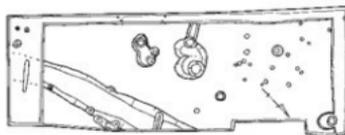
- OT1, T2
1. 礫土
  2. 引表土
  3. 造成土
  4. 灰色砂質土（遺物包含層）
  5. 黒褐色砂質土（遺物包含層）
  6. 黒褐色粘質土（遺物包含層）
  7. 灰褐色粘質土
  8. 灰褐色砂質土



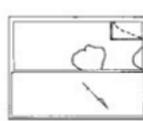
#### T3



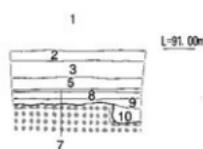
#### T2



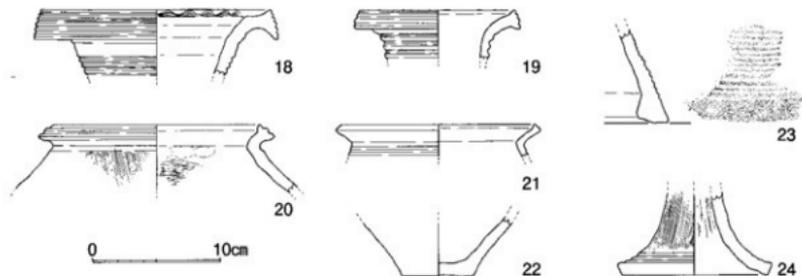
#### T4



- OT3, T4
1. 礫土
  2. 引表土
  3. 造成土
  4. 青灰色粘質土
  5. 青緑灰色粘質土
  6. 青灰色粘質土
  7. 青灰色粘土
  8. 青灰色・黄褐色土層土
  9. 黄白色粘質土
  10. 青灰色土・黄褐色土層土



第27図 トレンチ平面・断面図 (1/100)



第28図 出土土器 (1/4)

## 2. 大河内遺跡確認調査 (H17-2)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町黒土字大河内783ほか

(工事内容) 駐車場造成

(調査期間) 平成17年5月16日～5月20日

(調査面積) 約22㎡

(調査の概要)

勝央町黒土において駐車場の造成が計画された。予定地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地である大河内遺跡に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。調査は建設範囲に2箇所のトレンチを設定した。耕作土等は重機により除去後、人力により包含層を掘削し、遺構検出を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

### T 1

予定地東端に4.8×2.0mのトレンチを設定した。地表下60cmで黄色砂質土層の地山を確認した。その上に黒褐色砂質土層、茶褐色砂質土層が堆積する。遺構は黒褐色砂質層面から切り込まれるが、今回は地山面で検出した。遺構は一部掘削したが、大部分は検出のみを行った。黒褐色土を埋土とするものは柱穴、土壁、溝、焼土面がある。時期は弥生時代のものと考えられる。また、茶褐色土を埋土とするものに柱穴があり、時期は中世と考えられる。出土遺物は、弥生土器の他、須恵器、勝間田焼が少量出土している。

### T 2

予定地西端に6.4×2.0mのトレンチを設定した。地表下40cmで黄色砂質土層の地山を確認し



第29図 調査位置図 (1/40000)



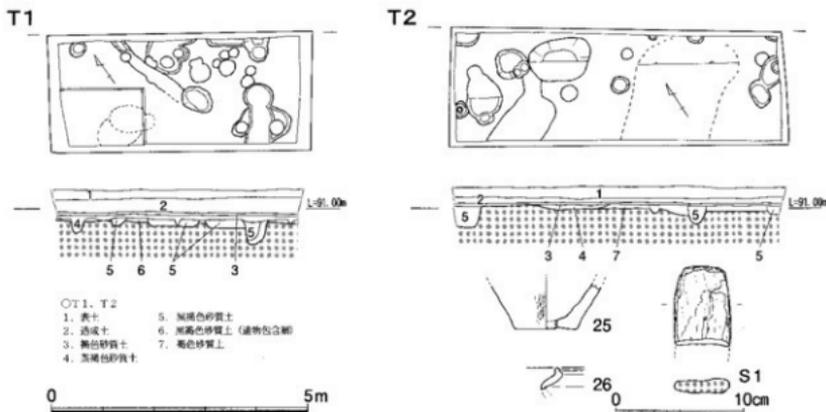
第30図 トレンチ位置図 (1/5000)

た。ただ北東側では地山がやや低くなり、褐色砂質土層が堆積する。遺構はこの地山面および褐色砂質土面で確認された。T1で見られた黒褐色砂質土層は、削平により残っていない。遺構の大部分は検出のみを行った。まず黒褐色土を埋土とするものは柱穴、土塋等がある。時期は弥生時代のものと考えられる。また、茶褐色土を埋土とするものに土塋、柱穴があり、時期は中世と考えられる。出土遺物は、弥生土器が大半を占め、その他に須恵器、勝間田焼が少量出土している。

図化できた出土遺物に弥生土器の甕25・26の他、扁平片刃石斧S1がある。

#### (調査結果)

確認調査の結果、トレンチ2箇所ともに遺構・遺物が確認され、改めて大河内遺跡の広がりや南に延びることが確認された。特に柱穴、土塋、焼土面などの弥生時代中期の遺構が多く検出された。その他、中世期の柱穴も確認され、勝間田焼も出土していることから、当時期の集落の存在も明らかとなった。これらのことから、大河内遺跡は弥生時代～中世にかけての集落遺跡と考えられ、付近一帯へ大きく広がることが確実となった。



第31図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

### 3. 黒坂地内試掘調査 (H17-3)

(所在地) 岡山県勝田郡勝安町黒坂字玄入122-1ほか

(工事内容) 宅地造成

(調査期間) 平成17年7月13日

(調査面積) 約12㎡

(調査の概要)

黒坂地内において宅地造成が計画された。予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である玄入散布地に隣接することから、事前の試掘調査を実施することとなった。計画地は、過去に大規模な造成がなされていた。3箇所のトレンチを設定した。耕作土等は重機により除去後、人力で遺構検出を行った。以



第32図 調査位置図 (1/40000)

下、各トレンチの概要を述べる。

T 1

予定地東端に3.0m×1.0mのトレンチを設定した。表土下50cmで地山に達する。地山面まで削平を受けている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 2

予定地中央やや平坦な位置に4.0×1.0mのトレンチを設定した。表土下1mで地山に達する。T 1同様、地山まで削平を受けている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 3

予定地西端、旧地形ではやや谷部にあたる位置に5.0m×1.0mのトレンチを設定した。表土下20cmで地山に達する。層序は、表土、黒褐色砂質土、地山の順であり、唯一改変を受けていない箇所であったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



第33図 トレンチ位置図 (1/5000)

**(調査結果)**

以上の結果から、今回の試掘調査では、地形の改変が著しかったこともあり、直接遺跡の痕跡を示すものは確認されなかった。しかし、土器の散布が確認されており、周辺の丘陵部に遺跡が存在する可能性が高い。

**4. 及遺跡確認調査1次、2次 (H17-4)**

**(所在地)** 岡山県勝田郡勝央町黒土字及821-3ほか

**(工事内容)** 道路建設

**(調査期間)** 1次：平成17年6月15日～7月13日

2次：平成17年10月1日～11月11日

**(調査面積)** 約208㎡



第34図 調査位置図 (1/40000)

**(調査の概要)**

黒土地内において鍍の池線の建設が計画された。予定地は、周知の小池谷南散布地（現在、及遺跡に名称変更）にあたるため、計画地全域を対象に事前の確認調査を実施することとなった。まず1次調査として国道取付付近5箇所（T 1～5）、東西道路の部分5箇所（水田上段T 6～8、下段T 9・10）の計10箇所にトレンチを設定して行った。また、第2次調査として、T 11～16の6箇所にトレンチを設定した。調査では、耕作土等は重機により除去後、人力により包含層を掘削し、遺構検出を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T 1

4.2×2.2mのトレンチを設定した。基本層序は表土、造成土、灰色粘質土、青灰色粘質土、地山である黄色粘質土の順である。地山は地表下70cmで達する。地山面は地層が乱れているが、ほぼ水平である。遺構は確認されなかった。出土遺物では、勝間田焼、瓦質土器等が少量出土した。

## T 2

80×28mのトレンチを設定した。基本層序はT 1と同じである。地山は地表下70cmで達する。地山面は地層が乱れているが、ほぼ水平である。遺構は確認されなかったが、不整形のたわみ状の落ち込みが確認されている。性格は不明である。出土遺物では、勝間田焼等が少量出土した。

## T 3

5.0×2.9mのトレンチを設定した。基本層序はT 1・2と同じである。地山は地表下75cmで達する。地山面は地層が乱れているが、ほぼ水平である。遺構は確認されなかった。出土遺物では、勝間田焼等が少量出土した。

## T 4

4.8×3.5mのトレンチを設定した。基本層序はT 1～3と同じであるが、青灰色粘質土はやや厚く堆積し、地表下90cmで地山に達する。地山面は地層が乱れているが、ほぼ水平である。遺構は確認されなかった。出土遺物では、勝間田焼、瓦質土器等が少量出土した。

## T 5

4.4×2.4mのトレンチを設定した。基本層序はT 4と同様であるが、ここでは青灰色粘質土の下層に黒灰色、灰白色粘質土が、薄く堆積している。地山は地表下90cmで達する。遺構は確認されなかった。出土遺物では、勝間田焼が少量出土した。



第35図 トレンチ位置図 (1/5000)

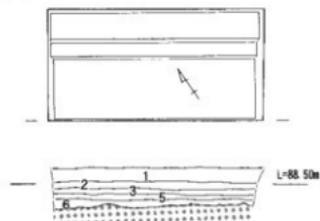
T 6

30×15mのトレンチを設定した。基本層序は表土、造成土、地山である黄色粘質土の順である。地山面は削平を受けているものの、東南に傾斜する。遺構は地山面で検出された。遺構は柱穴3基・土塼1基である。出土遺物では、中世の勝間田焼、土師器片等が出土した。

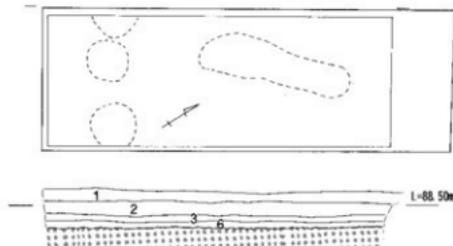
T 7

25×15mのトレンチを設定した。基本層序は表土、造成土、灰色粘質土、遺物包含層である褐色粘質土、地山である黄色粘質土である。遺構は地山面で検出された。遺構は柱穴6基である。出土

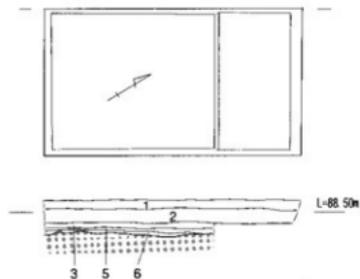
T1



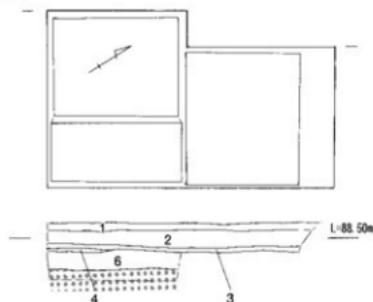
T2



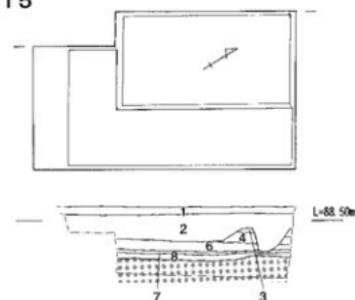
T3



T4



T5



0 5m

○T1～T5

1. 表土
2. 造成土・盛土
3. 灰色粘質土
4. 灰色粘質土
5. 青灰色粘質土
6. 青灰色粘質土
7. 黒灰色粘質土
8. 灰白色粘質土

第36図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

遺物では、中世の勝間田焼、土師器片等が出土した。

#### T 8

5.0×2.2mのトレンチを設定した。表土・造成下は灰色や灰褐色系の砂質土層が厚く堆積する。これらの層は遺物を含まない。地山面は東南に傾斜する。遺構は地山面で検出され、時期不明の柱穴3基・土塋1基、東西に延びる流路と思われる落ち込み等である。出土遺物では、耕作土中から中世の勝間田焼、土師器片、瓦質土器等が出土した。

#### T 9

4.8×20mのトレンチを設定した。地山面は圃場により削平を受け、南東に傾斜する。遺構は地山面で検出され、溝1条を検出した。出土遺物では、中世の土師器片等が出土した。

#### T 10

5.3×1.4mのトレンチを設定した。地山面は圃場により削平を受けている。遺構は地山面で検出され、東端において深さの浅い土塋2基を検出した。出土遺物では、中世の勝間田焼片が出土した。

#### T 11

8.0×30mのトレンチを設定した。東に向けて地山は下がり、東半の層序は遺物包含層である灰色砂質土と褐色砂質土、灰黄色粘質土、地山の順である。地表下1.3mで地山に達する。遺構は地山面で複雑に切りあう粘土採掘坑を検出した。埋土は地山土と灰色土のブロック状の混土で、第39図の瓦質鍋39は粘土採掘坑よりの出土である。時期は中世である。その他、出土遺物では、包含層中から勝間田焼、瓦質土器等が多く出土した。

#### T 12

8.0×2.8mのトレンチを設定した。地山は表土直下で確認された。地山面は中央を境に段になっており、圃場整備以前から削平されていたようである。遺構は確認されなかった。出土遺物では、勝間田焼、備前焼が少量出土した。

#### T 13

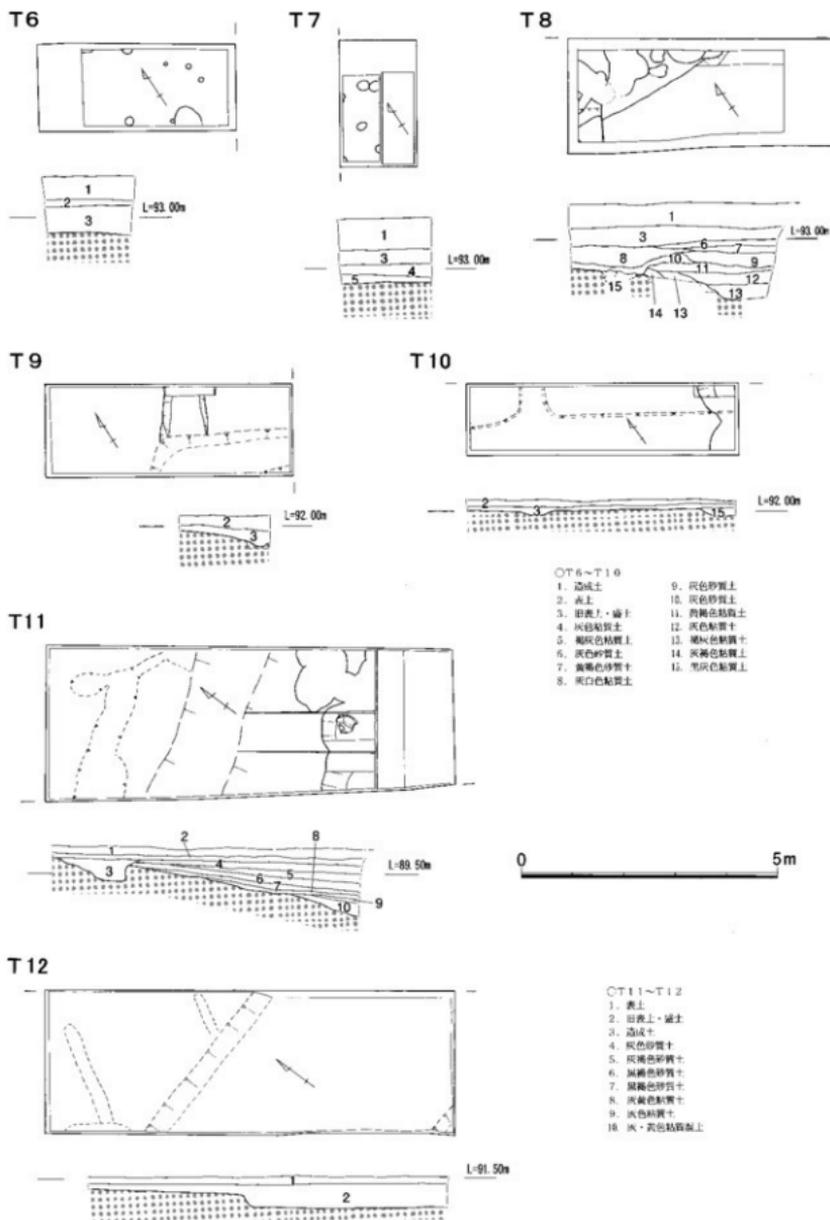
5.0×2.9mのトレンチを設定した。東側では圃場整備の削平により表土直下、西側では1mで地山に達する。トレンチ西端では地山土・灰色粘土混土が確認され、粘土採掘坑と判明した。またピットを1基確認したが、時期は中世と考えられる。出土遺物では、瓦質土器の鍋や釜が多く、勝間田焼や土師器等も少量出土した。

#### T 14

3.6×2.5mのトレンチを設定した。基本層序は東端で表土、造成土、灰色砂質土、褐色砂質土、地山の順である。地山は地表下80cmで達する。褐色砂質土層は中世の土器が出土する良好な包含層である。地山面において不整形の遺構や溝を検出した。この溝の時期は弥生時代と判明した。出土遺物では、包含層中から勝間田焼、瓦質土器等が非常に多く出土した。

#### T 15

5.0×2.5mのトレンチを設定した。基本層序は表土、造成土以下は褐色や茶褐色系粘質土が堆積し、深くなると青灰色粘質土、灰色砂質土が認められる。地山へは、地表下1.7cmで地山に達する。遺構は確認されなかった。地層の状況から地山は深い位置にあり、周辺は旧河道上にあたるようである。出土遺物では、瓦質土器等が少量出土した。



第37図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

## T16

6.2×2.5mのトレンチを設定した。東端での基本層序は表土、造成土、灰色砂質土、黒褐色砂質土、灰褐色砂質土、地山の順である。地表下70cmで地山に達する。地山面と黄褐色砂質土層上では遺構の可能性のある柱穴が6基検出された。出土遺物では勝間田焼、土師器片等が出土した。

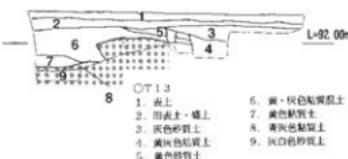
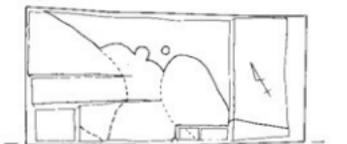
図化した出土遺物では、土師器高杯27、須恵器甕28、勝間田焼碗29～32、備前焼撚り針33、瓦質土器では、椀34、羽釜35・36、撚り針37、鍋38・39がある。

## (調査結果)

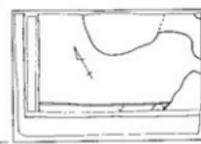
1次として国道から北へ延びる部分T1～5と東西に延びるT6～10の2地区に分かれて確認調査を実施した。まずT1～5では、明確な遺構は確認されなかった。このことから集落は存在しないと考えられる。しかし、地山面は比較的浅いところで確認されることや、地層堆積状況、地山面から遺物が出土すること等からも集落縁辺にある水田地帯である可能性が考えられる。

T6～10では、すべてにおいて遺構・遺物が確認され、付近が集落遺跡の一部と確認された。水田

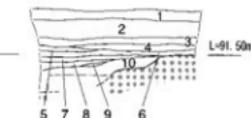
## T13



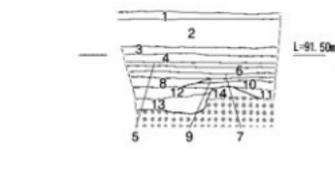
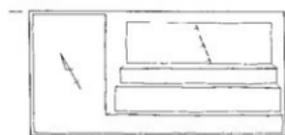
## T14



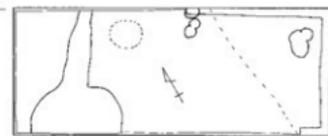
- OT14
1. 表土
  2. 礫土
  3. 灰色砂質土
  4. 黄灰色粘質土 (遺物包含層)
  5. 灰白色粘質土 (遺物包含層)
  6. 黄褐色粘質土 (遺物包含層)
  7. 茶褐色粘質土
  8. 黄褐色粘質土
  9. 褐色粘質土
  10. 灰・黄褐色粘質土



## T15



## T16

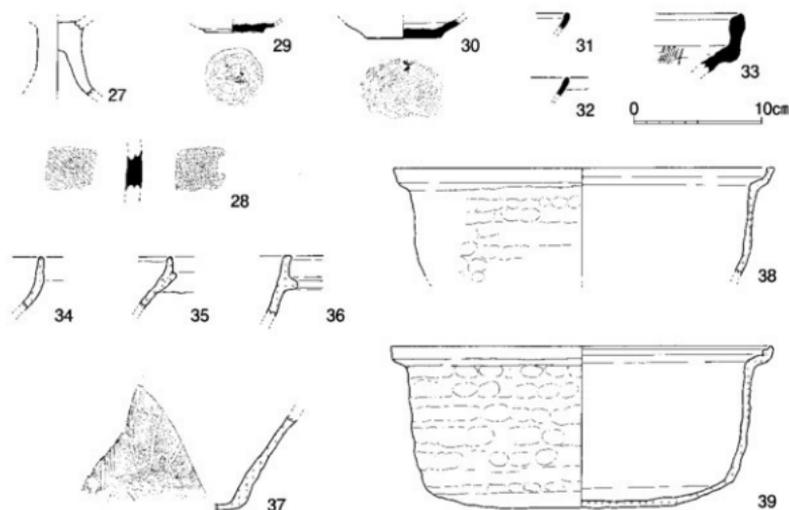


- OT16
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 表土     | 8. 黄褐色粘質土  |
| 2. 礫土     | 9. 粘着灰色粘質土 |
| 3. 灰色砂質土  | 10. 灰褐色粘質土 |
| 4. 灰色砂質土  | 11. 暗褐色粘質土 |
| 5. 灰色砂質土  | 12. 褐色粘質土  |
| 6. 灰色砂質土  | 13. 褐色粘質土  |
| 7. 黄褐色粘質土 |            |

0 5m

第38図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

の上段に設定したT6～8では削平もわずかで、柱穴等が多く確認された。下段のT9・10は地山が大きく削平を受けているものの、わずかに遺構が残存しており、本来上段同様に遺構が広がっていたと推測され、南に遺跡は広がるようである。2次調査では、続き番号としてT11～16までの6箇所を設定した。国道から北へ延びる部分T11・12と西側T13～16の2地区に分けて確認調査を実施した。まずT11は、旧地形が斜面地にあたるため圃場による削平が著しいものの、良好な包含層を確認した。地山上では粘土探掘壕が検出された。T12は削平を受けているが、さらに東側では旧地形を留めている可能性もある。このことからT11がほぼ遺跡の東端と考えられ、地形の下がる位置では遺跡が残存していると考えられる。T13・14では削平を受けているものの、遺構が確認され、包含層中から多くの遺物も出土している。またT16では浅い位置で地山を検出し、遺構・遺物が発見された。またT15付近では、河道にあたり、遺跡は存在しない。出土遺物は、勝間田焼、土師器、瓦質土器など中世期の遺物が大半である。これらのことから、今回確認された遺跡は中世期を中心とする集落遺跡と考えられる。旧地形等からも遺跡が付近一帯へ大きく広がる可能性が高い。



第39図 出土土器 (1/4)

---

# 写 真 图 版

---



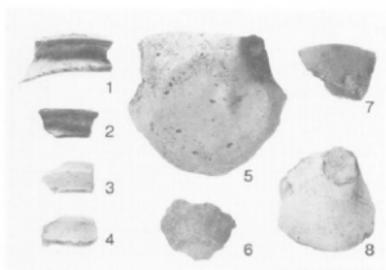
ほきの平遺跡全景（東から）



ほきの平遺跡T1（北から）



ほきの平遺跡T2（北から）



ほきの平遺跡出土遺物



舞台裏遺跡遠景（北から）



舞台裏遺跡T1（東から）



舞台裏遺跡T2（東から）



舞台裏遺跡T3（南から）



森原散布地遠景（南から）



森原散布地 T 1（北から）



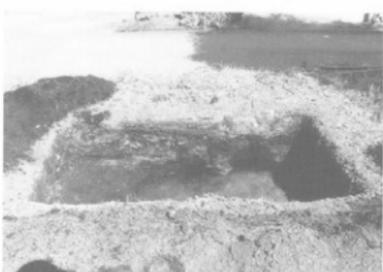
森原散布地 T 2（北から）



森原散布地 T 3（西から）



森原散布地 T 5（西から）



森原散布地 T 6（西から）



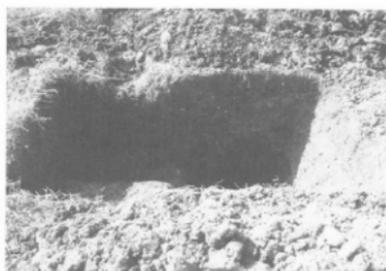
豊久田中地内遠景（南から）



豊久田中地内 T 1（南から）



豊久田中地内T 2 (南から)



豊久田中地内T 3 (東から)



石生地内T 1 (東から)



石生地内T 2 (東から)



石生地内T 3 (東から)



石生地内T 4 (東から)



石生地内T 5 (東から)



石生地内T 6 鋤溝検出状況 (東から)



大河内遺跡 (H16-1) 遠景 (西から)



大河内遺跡 (H16-1) T 1 (西から)



大河内遺跡 (H16-1) T 1 土層断面 (南から)



大河内遺跡 (H16-1) T 2 (西から)



大河内遺跡 (H16-1) T 2 土層断面 (南から)



大河内遺跡 (H16-1) T 3 (東から)



河内古墳群遠景 (北から)



河内古墳群 T 1 (北から)



河内古墳群T 2 (北から)



河内古墳群T 3 (北から)



河内古墳群T 4 (北から)



河内古墳群T 5 (南から)



河内古墳群T 6 (南から)



河内古墳群T 7 (北から)



釜屋散布地遠景 (北から)



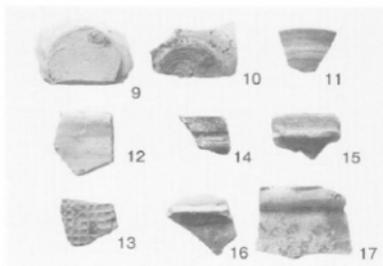
釜屋散布地T 1 (西から)



釜屋散布地T1土層断面(南から)



釜屋散布地T2(西から)



釜屋散布地出土遺物



平散布地遠景(西から)



平散布地T1(南から)



平散布地T2(北から)



平散布地T3(南から)



平散布地T4(南から)



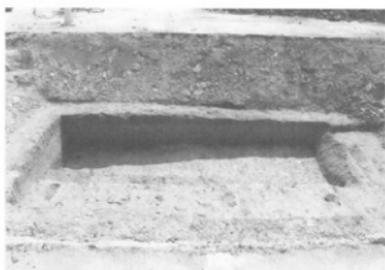
大河内遺跡 (H17-1) 遠景 (南から)



大河内遺跡 (H17-1) T 1 (北から)



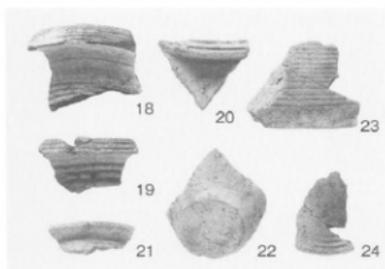
大河内遺跡 (H17-1) T 2 (北から)



大河内遺跡 (H17-1) T 3 (北から)



大河内遺跡 (H17-1) T 4 (北から)



大河内遺跡 (H17-1) 出土遺物



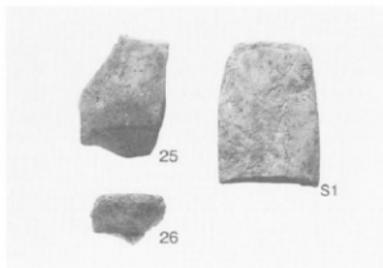
大河内遺跡 (H17-2) 遠景 (南から)



大河内遺跡 (H17-2) T 1 (東から)



大河内遺跡 (H17-2) T2 (西から)



大河内遺跡 (H17-2) 出土遺物



黒坂地内遠景 (西から)



黒坂地内T1 (北から)



及遺跡遠景 (南から)



及遺跡T1 (北から)



及遺跡T2 (北から)



及遺跡T3 (東から)



及遺跡T4（北から）



及遺跡T5（東から）



及遺跡遠景（東から）



及遺跡T6（西から）



及遺跡T7（北から）



及遺跡T8（東から）



及遺跡T9（東から）



及遺跡T10（東から）



及遺跡T11（東から）



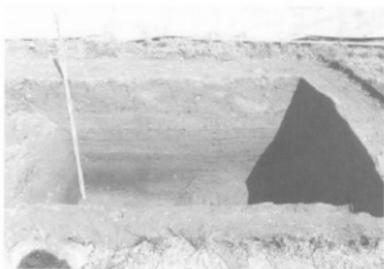
及遺跡T12（東から）



及遺跡T13（北から）



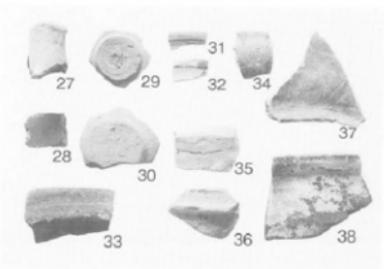
及遺跡T14（北から）



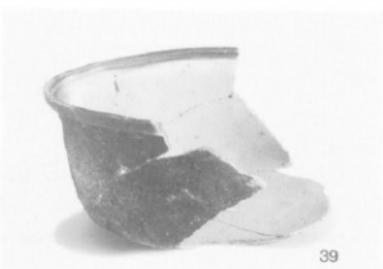
及遺跡T15（南から）



及遺跡T16（南から）



及遺跡出土遺物



及遺跡出土遺物

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しょうおうちょうないいせきしくつかくにんちょうさほうこくしょ						
書名	勝央町内遺跡試掘確認調査報告書（平成15年度～平成17年度）						
シリーズ名	勝央町文化財調査報告						
シリーズ番号	7						
編著者名	團 正 雄						
編集機関	勝央町教育委員会						
所在地	岡山県勝田郡勝央町勝間田200-1						
発行年月日	2009年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コ ー ド	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°	°		
	岡山県勝田郡勝央町						
ほきの平散布地	植月北3798ほか	33622	49	35 04 38	134 07 12	2003.5	10 公共・道路
舞台裏遺跡	植月北2664-1ほか	33622	64	35 04 35	134 07 22	2003.5	48 公共・道路
森原散布地	河原1468-1	33622	453	35 04 42	134 09 46	2003.5～6	42 公共・道路
豊久田中地内	豊久田2093ほか	33622		35 03 55	134 10 06	2003.10	7 公共・道路
石生地内	石生1687-1ほか	33622		35 04 27	134 08 40	2003.10～11	35 公共・道路
大河内遺跡	黒土781-1,4ほか	33622	805	35 01 20	134 08 11	2004.6	32 民間・駐車場
河内古墳群	植月中675-1ほか	33622		35 03 13	134 07 22	2004.6～7	288 公共・駐車場
釜屋散布地	黒土762-1ほか	33622	747	35 01 22	134 08 11	2004.8～9	46 民間・宅地造成
平散布地	下町川222-1ほか	33622	14	35 05 30	134 08 42	2005.2～3	16 公共・道路
大河内遺跡	黒土768-2ほか	33622	805	35 01 21	134 08 12	2005.4	40 民間・店舗
大河内遺跡	黒土783ほか	33622	805	35 01 19	134 08 10	2005.5	22 民間・駐車場
黒坂地内	黒坂122-1ほか	33622		35 02 09	134 05 10	2005.7	12 民間・宅地造成
及遺跡	黒土821-3ほか	33622	752	35 01 25	134 08 24	2005.6～7 2005.10～11	208 公共・道路
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
ほきの平散布地	集落跡	弥生～古墳	包含層		弥生土器、須恵器		
舞台裏遺跡	集落跡	弥 生	柱穴、土壇		弥生土器		
森原散布地	集落跡	弥 生	柱穴、土壇		弥生土器		
豊久田中地内	散布地	近 世			青磁		
石生地内	散布地	中 世	鋤溝		須恵器、勝間田焼		
大河内遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土壇		弥生土器、須恵器		
河内古墳群	古 墳	古墳～近世	段状遺構、近世墓		須恵器、備前焼		
釜屋散布地	集落跡	中 世	包含層		勝間田焼、瓦質土器		
平散布地	散布地						
大河内遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土壇、溝		弥生土器、勝間田焼		
大河内遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土壇、溝		弥生土器、勝間田焼、石器		
黒坂地内	散布地						
及遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、粘土探堀、溝		勝間田焼、瓦質土器		

**印刷データ**

**紙 質** 表 紙マツトボスト153kg  
本 文=シルバーダイヤ76.5kg  
写真版紙=シルバーダイヤ76.5kg

**文 字** モリサワ書体 14Q・明朝・正体

**本文画面** Macintosh

**写 真** カラー=4色分解  
本文写真=カラースキャナー175線  
写真版紙=モノクロスキャナー175線

---

勝央町文化財調査報告 7

**勝央町内遺跡 試掘確認調査報告書**

(平成15年度～平成17年度)

2009年3月29日発行

編集・発行 勝央町教育委員会  
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田200-1  
TEL (0868-38-3111)

印 刷 株式会社廣陽本社  
〒708-0052 岡山県津山市田町22  
TEL (0868-22-7221)

---

